

中国・四国ブロック

1.プログラム詳細

11月20日(木)

時間	分	内容
10:00～10:30	30	受付
10:30～10:40	10	開講式 主催者挨拶(内閣府) 来賓挨拶(愛媛県)
10:40～11:40	60	講演① 「交通ボランティアの育成と活性化」 宮田美恵子(特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長)
11:40～12:40	60	昼休憩
12:40～13:40	60	講演② 「こどもの交通行動と発達の関係」 稲垣 具志(東京都市大学建築都市デザイン学部都市工学科 准教授)
13:40～13:50	10	休憩
13:50～15:00	70	活動事例発表
15:00～15:40	40	活動事例発表を元にした意見交換会
15:40～15:50	10	講評(コーディネーター) 稲垣 具志(東京都市大学建築都市デザイン学部都市工学科 准教授)
15:50～16:00	10	閉講式 主催者からの連絡事項 事務連絡
16:00		終了

2. 講義等の記録

■ 講演①

特定非営利活動法人日本こどもの安全教育総合研究所理事長

宮田 美恵子

「交通安全意識調査と教材活用法」

1. 交通安全教育のあり方と発達段階に応じた指導

交通安全教育のスタートラインは「交通安全は家庭から」と言われるように、まずは家庭でのしつけから始まる。諸外国においても、イギリスでは「とまる・みる・きく」を、ドイツでは歩くことを重視した「ゆっくり歩く訓練」を幼児期から教えている。日本でも「とまる・まつ・みる」といった基本を家庭で教えてきたが、現代では家庭での指導が行き届いていなかったり、教える人が不在であったりする事情もある。そのため、地域の住民や園、学校、ボランティアが連携し、繰り返し教えていくことが極めて重要である。

○ 児童期の発達の特性(抜粋)

・身体的・社会的発達:

体をよく動かし、仲間や集団と一緒に遊ぶことが増える段階である。

・主体的ルール作り:

大人に言われるだけでなく、自分たちの経験や失敗から「こうした方が良いのではないか」と自ら決まりを作り、守り合おうとする特性がある。

・感謝と尊敬の心:

学校の社会科等の学びを通じ、生活を支えてくれる人や高齢者への尊敬・感謝の気持ちを育む段階にある。

2. 交通安全意識等調査結果の分析(小学校 3~6 年生、中学生・各学年の保護者対象)

現在継続中の調査ではあるが、特徴的な傾向が見えてきたため、交通安全教育の参考として提示する。

○ アンケートの質問 被害・加害の現状

・ヒヤリハットの経験

⇒実際に車に接触した経験は 3~4%だが、ぶつかりそうになった「ヒヤリハット」の経験は、子供の 3 分の 1 にのぼる。

・場所の特定

⇒保護者の 6 割が「いつも同じ場所でヒヤッとすると回答しており、道路環境や個人の癖に傾向があることがわかる。

・ドライバーへの過信

⇒「ドライバーが気をつけていれば事故は起きない」と考える子供は 7 割を超え、保護者も同様の感覚を持っている。相手が止まってくれるという前提が、自らの回避行動を遅らせる危うさを示している。

・ルールのバイアス

⇒「人がいない道なら赤信号でも渡る」大人が約 5 割、子供も 2 割存在する。「面倒だから」「事故に遭っていないから大丈夫」といった勝手な判断で見切り発車をする実態が見られる。

- 教育が影響を与えるきっかけ

⇒学校の授業よりも「警察の安全教室」やテレビなどでの「交通事故のニュース」が子供に強く影響を与えている傾向がみられた。特に同年代の子が犠牲になったニュースは自分事として捉えられ、教育的効果が高まるタイミングとなる。

3. 実践的指導のアップデート:「止まる・待つ・見る・渡る」

実際に道を歩いて指導する保護者は8割を超えている。以下は、その質を高めるための具体策である。

- 「止まる」:

7割の子が「足跡マークがあれば安全」と信じているが、マークの位置が必ずしも安全とは限らない。内輪差や巻き込みを考慮し、「マークより1、2歩下がって止まる」ことを実地で教える必要がある。

- 「待つ」:

黄色信号や点滅で待たない子が3割存在する。ガードレールのない場所では柵の後ろに回るなど、その環境に合わせた安全な待ち方を考え、実施させることが重要である。

- 「見る」:

首を振る形式的な動作ではなく、視野の中心部分にあり物体を鮮明に見るために重要な役割をする「中心視野(1~2度)」で車を捉えるため、肩や体の向きをしっかりと対象に向けることを確認する。

- 「渡る」:

渡る前だけでなく、渡りきった後も安全とは限らない。運転手と目を合わせる「アイコンタクト」を励行し、渡りきった先で立ち止まらず速やかに移動するまでを一連の動作として教える。

4. 幼児期への対応と物理的な安全管理

幼児期は自己中心的で、興味があるものに一直線に飛び出す。この段階では、大人が先回りする「安全管理」が必要である。

- 迷子紐(ハーネス):

見た目の抵抗感を抱く人もいるが、命を守る1つの手段として有効である。周囲の意識を変えていく必要がある。

- 抜けにくい手の繋ぎ方:

大人の親指を子供に握らせ、手首を包み込むようにV字で支える繋ぎ方を推奨する。

- つり革型リング:

ベビーカー等に装着し、子供に「掴まる場所」を意識させることも有効な手段である。

5. 危険予測能力と危険回避能力を育てる

○幼児期の発達特性(抜粋)

- 自己中心的:

子供同士での遊びなどから豊かな想像力を育み、自らと違う他者の存在や視点に気づく。

- 生活習慣を獲得:

身近な人や自然など環境との関わりから興味関心の対象を広げる。

○危険予測能力と危険回避能力

・危険予測能力：

目の前には見えていない危険を想像し、将来起こり得る危険を予測する力。

・危険回避能力：

危険予測能力を基に、危険と遭遇しないように行動を選択し、安全な行動をとる力。

これらの能力は相互に関連しており、危険を予測できなければ回避行動につながらないため、両方をバランスよく身につけることが重要。特に子ども達には、成長段階に応じた教育を通じてこれらの能力を育むことが求められる。

6. 交通安全体験学習のための指導方法

具体的にどうフィールドワークに落とし込むかについては、まず教材などでの事前学習を行い、その後に親子で実際の道を歩くことが有効だ。一般論ではなく「子供がいつも使うこの道」において、「ここではどうすべきか」を体験的に確認するのである。足跡マークがあっても「ここではトラックに巻き込まれるからもっと下がろう」といった、場所ごとの具体的な正解を一緒に見つけていくことが重要だ。そして、できたことをしっかりと評価して認めるべきである。3、4年生は認められたいという気持ちが強い段階であるため、褒めることでモチベーションが上がり、集団の中でも互いに注意し合えるようになる。

交通事故を自分たちの問題として捉え、地域を支えてくれる人々への感謝の気持ちを持ちながら、安全に暮らせる力を育んでいく。そのためにも、子供たちの発達段階に合わせたタイミングの良い指導を今後も続けていきたい。

■講演②

東京都市大学建築都市デザイン学部都市工学科准教授

稲垣 具志

「こどもの交通行動と発達の関係」

※37 ページの東北ブロックでの講演議事録参照

■活動事例発表

徳島県交通安全母の会連合会 理事

鎌田 サチ子

初めに阿南市について少しご紹介させていただきます。阿南市は四国西東端に位置し、東は紀伊水道、南は太平洋に面して山地と平野が広がる地域です。また、昔でいうと青色発光ダイオード、今で言う LED を開発した企業なども立地して、光の町としても有名です。今年 9 月の推計となりますが、阿南市は人口 6 万 4658 人、世帯数は約 3 万 1000 世帯です。ただ、65 歳以上の高齢者人口は年々増加していて、現在は総人口の約 38.7%の約 2 万 5000 人が高齢者となっていて、今後も増加する見込みです。

続いて、阿南市交通安全母の会の会員数ですが、今年度 62 名で、年齢は 60 歳が中心となっております。当会の目的は「交通安全は家庭から」を合言葉に、子どもや高齢者の交通事故防止を中心に、母親の立場から交通安全意識の啓発や高揚に努め、家庭や地域から交通事故をなくし、明るい社会の実現に寄与することです。

阿南市を含む徳島県は人口が少ない割に交通死亡事故が多いです。人口 10 万人当たりにも占める交通事故死者数が令和 5 年、令和 6 年と 2 年連続全国ワーストで、高齢者 10 万人当たりにも占める高齢者の交通事故死者数も令和 6 年度中は全国ワーストでした。悲惨な交通事故を 1 件でも減らすため交通事故を起こさない、遭わないようにするため私たちの主な活動はスライドに記載のとおりです。これらの活動の中から一部抜粋してご紹介させていただきます。3 枚の写真は、今年の春の全国交通安全運動期間中に阿南市の交通安全協会や事業所の方々と連携して実施したキャンペーンの状況となります。

次の 2 枚の写真ですが、今年の秋の全国交通安全運動期間中に実施したキャンペーンの状況となります。阿南市内では今年 3 月に踏切事故も発生していましたので、JR 職員さんと協力して踏切通行時の安全運転を呼びかけるキャンペーンの実施状況が左側の写真となります。

続いて、「いちねんせいのおやくそく」読本の件ですが、保育所幼稚園には阿南市の交通指導員さんとともに母の会は指導にあたっております。その子どもたちが小学 1 年生に上がる時に、この 1 年生のお約束読本を配布しております。

交通事故に遭わないよう、学校や家庭で交通安全を学ぶために配布しております。今年度は、阿南市内の新小学 1 年生や学校に約 600 冊を配布しました。この読本の配布は、学校からいつもありがとうございますと言ってきております。家庭でも保護者の方々とお子さんが 1 冊の本を読んで話をし、一緒に交通ルールについて勉強できるので大変好評だと聞いております。

おわりになりますが、今後も「交通安全は家庭から」を合言葉に、交通事故のない安全で安心なまちづくりに貢献できるよう、母親の目線から交通安全活動を継続していきたいと思っております。以上で発表を終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

山口県交通安全母の会 会長

藤井 恵子

皆様こんにちは。山口県交通安全母の会の藤井と申します。本日は、私どもの取り組みとして高齢者交通安全啓発活動を中心にご紹介いたします。どうぞよろしく願いいたします。

当会の中心的な活動である高齢者世帯訪問についてです。世帯訪問では、事前に作成した計画書に沿って、交通ルールの再確認や生活上の注意点をわかりやすくお伝えしております。対話を重視し、相手の立

場に寄り添う説明を心がけています。その際、持って回る交通安全の啓発リーフレットです。世帯訪問の際に配布物として作成した啓発リーフレットは、見やすさと実用性を重視しています。文字は大きめに図や具体例を入れることで理解をしていただきます。家族やご近所の方と話題にしやすい内容にしています。

そして一番特徴があるのがこの訪問時に渡す交通安全トイレットペーパーです。訪問時には毎年交通安全と書かれたトイレットペーパーをお渡ししています。これをお渡することで会話が生まれ、自然に交通安全の話題に入るきっかけになります。また、地域ごとにそれぞれ趣向を凝らした手作りグッズなども一緒にお渡しし、喜んでいただいています。

毎年の全国交通安全運動には県庁前の出発式に参加し、県下全域で交通安全意識を高めています。啓発イベントや街頭活動を通じ、幅広い世代へのメッセージを発信しています。出発式の際にデモンストレーションとして、私ども会員が自転車ヘルメットの着用モデルとなったりします。正しい被り方やあご紐の締め方を実演し、安全意識を具体化します。特に保護者や子どもたちの理解が深まります。

春と秋の交通安全出発式も毎回参加しています。県庁前だけではなく、各市の出発式にも参加しております。白バイやパトカーの出発を見送り、活動のスタートを行う大切な場面です。

このような活動を中心に行いながら、高齢者の世帯訪問の際には、訪問の流れとして事前学習会、それから訪問時のチェック、歩行者、それから横断の仕方などを啓発と配布物の提供によって皆さんにお伝えしております。そして最後にフォローアップをしております。成果として見守りが増えたことで、通報や危険箇所の報告が増え、安全対策が進みました。高齢の方から気にかけてもらって安心したとのお声もいただきます。警察官の方や民生委員の皆さんと一緒に訪問したりしています。

県で行う自動車自転車講習会では、自動車学校の協力で実技指導と安全ルールの確認を行います。参加した婦人会メンバーからは、運転のコツがわかった道路での不安が減ったとなかなか好評です。また、同じように交通安全の啓発活動の一環として、県警察音楽隊の皆さんにお越しいただいてご協力いただいています。

演奏で地域の注目を集めることで、交通安全メッセージの浸透につなげています。音楽は世代を超えて注目を集める強い力があります。また、パトカー、白バイを使った交通安全教室も行っています。パトカーや白バイを用いた教室は、参加者の関心をひき、楽しく学べる機会になります。

実車を見せることで警察活動への理解も深まり、安心感も増してきます。ここでちょっと自慢話です。これまでの活動が評価され、令和2年に内閣府特命担当大臣からの交通安全対策本部長表彰を受けました。地域と連携して取り組んだ成果が認められたことを大変光栄に思います。そして、今年、安全功労者として内閣総理大臣表彰をいただいたことは、会員一度の大きな励みになりました。今後も地域の安全のために精進してまいります。

最後に、私たちの活動は安心安全を積み重ねることが目的です。世帯訪問で得た住民の皆様の声をより安全なまちづくりに生かしていきたいと考えております。清聴ありがとうございました。

今治市交通安全母の会連合会 会長

村上 恵子

愛媛県交通安全母の会連合会会長の村上でございます。本日は、中国・四国各県から愛媛県にお越しいただき、誠にありがとうございます。

当県の活動事例発表といたしまして、愛媛県交通安全母の会連合会及び今治市交通安全母の会連合会

の活動事例についてご紹介いたします。皆様の地域での活動の参考となり、また今後の連携のきっかけとなれば幸いです。

愛媛県交通安全母の会連合会は、昭和 54 年に設立し「交通安全は家庭から」を合言葉に地域に根ざした活動を進めてまいりました。現在、全 20 市町のうち 10 市町で活動しておりますが、組織の縮小や会員の減少が喫緊の課題となっております。こうした中でも、この課題を乗り越え、活動の活性化に向けて各地区が連携し、創意工夫を重ねております。主な取組を二つご紹介いたします。

1 つ目は、秋に開催する「総会」と「愛媛県交通安全ボランティアリーダー講習会」の開催です。毎年各市町母の会の相互連携及び組織の活動強化を目的として総会を実施しています。また、講習会では交通安全教育の知識と技能を学び、各地域に持ち帰って実践していただいています。

今年度は、一般社団法人日本交通安全教育普及協会様にお越しいたき、危険予測シミュレーターを活用した体験型講習を実施し、横断歩道を渡る際の安全行動について具体的な体験を通じて理解を深めました。

2 つ目は、高齢者の交通事故防止に向けた活動です。県内では、交通事故死者の約 6 割が高齢者であり、特に夜間の歩行中の事故が課題となっております。そのため、年末には、警察の方のご協力も頂きながら道の駅や商業施設で反射リストバンドを配布し、地域の方々と直接ふれあいながら、夜間の視認性向上と安全確保を訴えています。

続いて、今治市交通安全母の会連合会の活動事例について紹介いたします。同会では、登校時の見守り活動に加え、心温まる『命の尊さ』を伝える活動として「ひまわりの絆プロジェクト」に取り組んでいます。これは、交通事故で命を落とした幼い男の子のご両親の「命の大切さを伝えたい」という思いから始まった活動で園児たちが交通安全を願いながら種を植え、咲いた花の種を翌年別の園へ受け継ぐという「命のバトン」をつなぐ取組です。植栽や収穫の際には、警察の方や交通指導員による横断歩道の渡り方や踏切の渡り方などの交通安全教室を行い、母の会からは安全グッズを贈呈しています。今年度は「ぬりえクレヨンセット」を渡しました。

このように、母の会では会員減少という課題を抱えながらも、地域に根ざした活動を通じて交通安全意識の向上に努めております。今後も「交通安全は家庭から」を合言葉に、地域と家庭をつなぐ架け橋として、安心・安全なまちづくりに貢献してまいります。本日の発表が、皆様の地域における交通安全活動の一助となり、また中国・四国ブロック全体での連携を深めるきっかけとなれば幸いです。ご清聴ありがとうございました。

島根県地域復興部交通対策課 上席調整監

岡崎 國朗

皆さん、こんにちは。島根県の行政の方で交通安全担当をしております岡崎と申します。今日もお越しいただきまして、ボランティアの方々に一生懸命活動していただいているところですが、ちょっと毛色が変わっているということで、行政の取組みについてお話をさせていただきます。

今日は松江の方から参りまして、皆さんの NHK の朝で今テレビ小説の「ばけげん」をやっていますけれども、ご覧いただいていますでしょうか。結構面白いなと思って私たちも見ているのですが、最初のあの場面で、写真で景色がどんどん回っている場面が出ていますけど、あれ、まさに私どものお散歩コースでして、ぜひまた皆さんにもお越しいただけたらなというふうに思っておりますので、よろしく願います。

では説明に入りますが、この図ですけれど、島根県の交通事故の状況でございまして、令和6年はこのように高齢者を含めて9人ということで、交通事故が全国最小になったところですよ。

こういったところで数が少ないところですけども、もちろん人口も島根県少ないので、それなりの数字かなと思われるかもしれないですけども、人口10万人あたりの数字を見たところでも、島根県はかなり数字が低いところで推移をしております、そういったことについて、本日ご参加の方々もちろんですが、このボランティアの方々ですね、頑張っているおかげだというふうに思っております、島根県の方ではそういった方々の知識を深めてもらい、技術を上げていただきたいということで研修を開催しております、今日はその説明をさせていただきたいと思っております。

これが研修の一つのメニューになります。交通指導員の研修を年に3回、県内各地でやっているのと、ほかに各地域の交通安全のリーダーになっていただける方についても2か所で合計5回ですね、ボランティアの方々の研修会を開催させていただいておりますので、ご覧になっていただければわかるように、自動車学校さんをお願いしまして、交通指導の実技の研修と新しい知識を深めていただくための研修、それから下の方になりますけれども、心肺蘇生や救急対応の実技的な研修もやっております。応急対応のことや救急隊のこととかにつきましても、何回もやっていただくということで、実際に事故が起きたときに対応いただけるようになるということで、結構ご好評いただいて毎年続けているところでございます。

時間も見ていただきますと、半日ちょっとのやり方に変えております、なるべくご参加いただきたいようにということで進めております。やり方が変わってまだ間もないものですから、これから浸透していった多くの方にご参加いただけたらなというふうに思っているところです。

ここからが実際の指導のときの資料です。こんな感じで指導員研修ということで各地に行きまして、集まった方々に指導をさせていただいております。初めにこういった感じで県の行政の方からですね、交通安全の基礎的な知識、数字の動きなどのお話をさせていただいております。

この後こんな感じで、アンケートも使って県の状況をお話ししながら、こういったクイズ形式で交通事故の発生状況ということ聞きながらやっております。ちなみにこの答えはですね、重傷事故とは夜のイメージがありますけれども、車の交通量が多いので昼の車の事故件数が多いですというのが答えになります。

それから、先ほど言いました誘導の関係は実技の形で行わせていただいております。こういった形で場面をイメージしていく座学の講習の後ですね。こんな形で自動車学校の交差点を使って、警察の方にもお世話になりながら研修をやっております。

右の方は応急処置の実際の状況です。これが自転車の関係ですけども、こういったチラシも配っているということで、啓発グッズの一つになります。このQRコードを読んでもらいますと、島根のPRのキャラクターで吉田くんというのが写っていますけれども、吉田くんの声で簡単な短時間の動画が流れて、自転車の安全運転について啓発が進むというような仕組みになっています。

また、今日ちょっとお持ちできなかったですけども、また見ていただけたらというふうに思います。もう一つのリーダー研修ということで、地域の方々に指導していただけるような形の研修のメニューです。この中でアルコールインターロック体験ということで、飲酒運転の防止するためにエンジンがかからないようにする機械でアルコールロックというシステムがあるので、そういった実機を持ってきて、ご覧いただいて自分のところでも使えるなどというのを見ていただいて、地域の方にも普及していただけるというような仕組みの研修をやっております。以上になります、行政の方でもボランティアの方々にご協力いただいているというふうなことで発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

瀬戸内交通警察協助手員会 副会長

太田 和子

太田協助手員「それでは岡山県から来ました太田です。」

しょうちゃん「しょうちゃんです。」

太田協助手員「二人合わせて。」

しょうちゃん「一人前」

太田協助手員「よろしくお願ひします。それでは。私は 2017 年に岡山県交通警察協助手員として 8 年間やらしてもらっています。立ち上げたのが日本初ということで、昭和 43 年。」

しょうちゃん「43 年？」

太田協助手員「43 年、57 年間やっております。」

しょうちゃん「もうすぐ還暦じゃな。」

太田協助手員「還暦でございますけどね。」

しょうちゃん「赤のちゃんちゃんこ。」

太田協助手員「赤のちゃんちゃんこは着ませんが、交通安全の警察の服を警察の方から用意していただいております。」

しょうちゃん「母ちゃん、この服か？」

太田協助手員「これは私の自前ですね。しっかりもらっております。そして私は 2017 年岡山県安全安心教育講師団というのを 29 年間やっております。」

しょうちゃん「俺もずっと一緒におるで。」

太田協助手員「そしてその活動の内容ですが、協助手員としては先ほども皆さん発表されましたが、交通安全春秋と出発式。」

しょうちゃん「出発式な。あと市長とか来る」

太田協助手員「来賓の方もたくさん出て出発式をしております。」

しょうちゃん「俺も行つとる。」

太田協助手員「あ、そうですね。そしてあとはですね、下にも出ていますが、駅、そしてハローズとかデパートの。」

しょうちゃん「ゆめタウン。」

太田協助手員「ゆめタウンとかにチラシを配っております。で、その時にね、しょうちゃんが」

しょうちゃん「酒飲んで運転すなよ。分かつとんか。」

太田協助手員「いろいろ言っております。そして今でしたらやはり早めのライトですね、それをね、付けるようにと季節に合わせて声掛けをしております。これは保育園とか幼稚園とかご依頼があれば訪問して交通安全の指導をしています。」

しょうちゃん「俺、いつもおる。」

太田協助手員「俺おるな。あちらの黄色の帽子の方はね、市の職員です。寸劇をしながら、アンパンマンがチャイルドシートを閉めてなくて、急ブレーキをかけてたんこぶができたそうですね。きちっと止めましょうという寸劇をしてくださって。その後、私も交通ルールのことについてヘルメットをかぶろうとか自転車ですね、そういう話をさしてもらっています。また、小学校では授業の一環として」

しょうちゃん「授業に出よるな。」

太田協助手員「授業に出ております。5年生、6年生、自転車に乗るお子さんたち一人ずつ全員自転車に乗ってヘルメットをかぶって教えております。それからですね、また、協助手員の方では県警の本部を訪問させていただいて、警察がどういう勉強しているか、交通ルールがまたどんどん変わっていますので、その講習の方も受けに行っています。」

しょうちゃん「忘れるな。」

太田協助手員「よく忘れますけどね。協助手員の方、案外と高齢の方が多いので。」

しょうちゃん「よう忘れるで。」

太田協助手員「繰り返し勉強させてもらっております。協助手員の方は年齢が70歳まででしたが、今75歳まで頑張ってお付き合いしとるな」

しょうちゃん「大丈夫かな。判断力鈍らんかな。」

太田協助手員「大丈夫だと思います。あとガードレールを付けてほしいとか、市民の方からお声がかかります。あと横断歩道が薄くなっている。それから踏切で一旦停止しない車が多いという話を聞いて、またそれに対して警察の方に声をかけ、確認しているという活動もしております。」

しょうちゃん「お巡りさんと仲よし」

太田協助手員「仲良しになりました。危機管理課の方も仲良くなつての親睦を深めております。先日もまた交通ルールというのがね、4月から変わるということで講習も受けたな。」

しょうちゃん「勉強した。」

太田協助手員「勉強しました。」

しょうちゃん「寝とんのもおったな。」

太田協助手員「寝とんのはおりません。みんな頑張つてね。その後反省会もしました。」

しょうちゃん「忘年会か。」

太田協助手員「反省会です。反省会もさしてもらっております。はい。それからこれ交通安全の講師団もね、私はもう29年間やらしてもらっていますが、その他に防犯の方でオレオレ詐欺の方、ひとみばあちゃん。」

しょうちゃん「俺はしょうちゃん。」

太田協助手員「しょうちゃんとひとみばあちゃんと、そちらの方もさしてもらっています。そして、だいたい20分から2時間、その依頼に合わせてやらしてもらっています。こどもたちは手遊びとか、それから大型紙芝居、それとあとよう聞いてくれたことで」

しょうちゃん「ご褒美に手品。」

太田協助手員「手品もね、しておりますね。交通安全の実際のこの様子ですが、楽しく学ぼうということで、お巡りさんはやはり数値とかそういうのを伝える訳ですが、私たちは楽しく学んでもらえるように、高齢者は特にそういうことね、楽しくいうことをやっております。それからですね、講師団の中には医師をされている方がいらっしゃいます。研修の時に自転車で交通事故に合い、麻痺が残ってしまい、20年間病院に通っている患者さんがいる。年老いた母親が付き添い息子の介護をしている。ヘルメットをかぶっていたら、20年も病院に通うことはなかったかもしれないとお医者さんが言いました。ヘルメットの大切さを深く語ってくれました。私はその時、とつても涙が出ました。普通でしたらこどもが親を介護しますが、親がこどもを介護に。どれだけヘルメットが大事かを伝えていました。」

しょうちゃん「大事やね」

太田協助手員「もう今は努力義務では。努力家でなくても義務。これはかぶるようにしてほしいと私は心から訴えたいと思います。それからたくさんの方が表彰されているので。私はちょっとずつ賞状もいただいております。もっともっと頑張る皆さんのために尽くしたいと思います。」

しょうちゃん「1日署長した。かあちゃんはおまけ」

太田協助手員「おまけでしたけど。これからもどんどん。活動して皆さんの力になりたいと思っています。」

しょうちゃん「よろしくお願いします。よろしくお願いします。」

太田協助手員「ありがとうございます。ご清聴ありがとうございます。」

呉交通協会 交通指導員

松村貴子 益田香奈子

松村指導員「待って、ボールが転がっちゃった。」

益田指導員「ちょっとストップストップ！何やってんの？」

松村指導員「ボールが転がっちゃって。」

益田指導員「ちょっとよく見て。あっちの方から車がやってきているよ。」

松村指導員「でもまだあんなに遠くにいるから、まだ大丈夫だよ。」

益田指導員「何言ってんの？車ってね、遠くに見えててもあつという間に目の前までやってくるよ。それにね、車って急に止まれないよ。」

松村指導員「そういえばそうだったな。忘れてた。」

益田指導員「まずね、道路を渡りたい時はまず止まるんだよ。止まる。そして車が来てたら通り過ぎるまで待つ。そして道路には飛び出さない。」

松村指導員「飛び出さない？聞いたことあるような気がするんだけど、やってみるね。」

止まって。待って。飛び出さない。」

益田指導員「すごいよ。よく覚えてたね。じゃあさ。歌は覚えてる？」

松村指導員「聞いたことあるような、ないような。」

益田指導員「あの歌だよ。犬のおまわりさんのリズムで歌って踊るやつ。」

松村指導員「なんか思い出したかも。じゃあみんなと一緒にやりたいな。」

益田指導員「じゃあみんなにも配ってるよね？私たちの資料が載ってる。四国ブロック幼稚園のみんなもいるので、みんなでやってみましょう。じゃあ皆さんあってください。ゆっくりやるので歌って踊ってみてください。」

私たちについてやってみてください。ミュージックスタート。」

「あかくて まあるい とまっとん こうつうるーは まもってる？

どうろのまえでは まずとまる くるまがきてたら まつんだよ

とびだし ぜったいだめ いつもとまっとんがみているよ

いのちはひとつだよ まほうのじゅもん とまってまるとびださない」

益田指導員「ありがとうございます。じゃあ座ってください。」

松村指導員「楽しかったな。」

益田指導員「楽しかったね。」

呉広島県交通安全協会の益田と松村です。今日は普段私たちが保育園などでやっている寸劇を披露さ

せていただきました。私たちはわかりやすく楽しい交通安全教育をモットーにしており、先程の「止まって待って飛び出さない」の魔法の呪文は 10 年前からやっていて、呉のこどもたちはほとんどみんな言えるようになってきていると思います。自信を持ってこれからも交通事故が減らせるように活動をしていきたいと思っています。今日は皆さんの机の上に反射材を配付させていただきました。目の前にいる「トマツン」という交通安全協会のオリジナルキャラクターをイラストにして作りました。これを市内の幼児さんにも配付させてもらって、いつでも交通安全を思い出してもらえるようにという願いを込めて作りました。皆さんも是非つけてください。今日はありがとうございました。

米子市交通安全指導員協議会 副会長

加藤 信之 栗垣 幹

皆さんこんにちは。今日は米子市から来ました米子市の交通安全指導員の加藤信之と申します。今回愛媛県に来られて大変うれしく思っていて実は 2 年、3 年前ぐらいにねりんピックが愛媛県で開かれまして、その時に愛南町で将棋の会場があったので、松山市にも泊まりましたけども、素晴らしいところで本当に良かったと思います。

米子市といっても鳥取県の西の端の方でして、皆さんご存じないかもしれませんが、環境がいいところで、日本で松山に続いて 2 番目ぐらいに住みやすいところじゃないかと言うふうに思っております。

位置関係はこういう関係ですけど、鳥取が東の端っこにあって米子市は西の端ですので、県庁所在地とは 100 キロぐらい離れていてあんまり交流としてはないかもしれないです。むしろ松江市とか岡山市、境港市との交流の方が多いい町になります。

それで、私が交通安全指導員として活動しているのは、加茂地区といまして、(両)三柳海岸とか交通量の多い道路とかもある。最近ものすごく発展した町になります。それで、これが(両)三柳海岸から見た大山の風景になります。今年の 11 月に撮った写真で、うちの唯一の自慢ですか、米子市からだど、どこから見ても大山がきれいに見えて、すごい山だと思います。

大山から来る水はものすごくおいしくて、サントリーの奥大山の水とか皆さんお飲みになったことがあるかもしれませんが、日本でも一番おいしい水がとれる町ということになっております。それで私は一応その加茂地区の中でも、梁光柳というところの交差点で 7 年以上定期的に立っていますけど、米子市の雪とかも冬場は降ったりして寒かったりとか、みぞれが降ったりとか、夏は暑いですし日が照って大変ですけども。なんでこんなことをやっているのかなと本人もたまに思うこともありますけど、やっぱりこどもたちがかなり通るわけでした。私が立つ 10 年ぐらい前ですか、ものすごく衝突事故の多い交差点でした、まあ米子市でも一番多かったかもしれないです。毎月一回ぐらいは車同士がぶつかったりひっくり返ったりして、もう保険代金だけでどれぐらいかかっているのかと思うほどの交差点でしたけど、私が立つようになってから 1 件も事故がないということで、やっぱり私はこうやって警察官の制服と同じような制服を着て立っているのですが、それなりの効果はあるのかなという気はしております。

私も最初の頃はあちこちから車が来るし、もう笛を吹きまくったりとか怒ったりして誘導していましたが、最近は立っているだけでみんな車が止まってくれるようなイメージになっています。これはやっぱり継続的に同じところずっと立っていると、車の方もちゃんと理解してくれて、こどもがいれば徐行あるいは一時停止をしつかりしてくれるようなイメージになっております。

一番楽しいのはボランティアとしてやっているところで、こどもたちとの交流ですよ。この左側、加茂小学

校という我々の校区の小学校ですけども、毎年2回くらい交通安全関係のボランティアの方に感謝する集いというのをやっております、そこにご招待いただいて子どもたちからいろいろ励まされたりとか、プレゼントをいただいたりというのが結構楽しみになっていますね。

ですので、ボランティアというのはあんまりやってあんまり意味がないもののようなのですが、やっぱりやってよかったなということもあるので、体の続く限りこれからも続けていきたいと。判断力がなくなったらまずいわけですが。

米子市の交通安全指導員って今50名ぐらいしかいません。私が始めた頃は100名近くいましたけど、今もう半減しているということで、やっぱり後継者不足ということですね。今、どなたも70歳ぐらいまで働いておられる方が多くて、なかなか頼んでも朝はちょっとなとかいうことで。後継者を育成するのがやっぱり課題の一つかなという気はしております。

それと以前は75歳定年で、75歳を過ぎたらもう君たちは交通安全活動をするのが危ないからやめてくれということでみんな辞めていただいていたのですが、この道20年とか30年のベテランの方が、ここ5、6年でほとんど辞められてしまって、やっぱり人材としてはもったいないという気がしていましたけども。去年ぐらいからもう75歳の定年はやめようということで、意欲があつて元気な方には死ぬまでやっていただくこと。これは人材不足の窮余の策なのかもしれないのですが、個人差もありますからね、健康面においては。なので、まあそれもありかなと思うのですが、やっぱり75になったら辞められるの方が多くなるとい気がしております。これから若い人をどんどん発掘していかないといけないのですが、それはちょっと後ほど。

私は交通安全指導員だけでなく、地域の交通安全の関することは結構いろいろやっております、両三柳の安全協会の支部長もやっていますし、公民館の方で青パトっていうのをご存知かもしれなくて、今回写真を載せようと思ったのですが、県の方にカットされたみたいでちょっと載ってないのですが、これは河崎口の清掃活動とか、自転車体操とか、交通の指導とかをやっているときの写真で、あと駅の美化活動とかですね。3年前からアジサイの花を植えようということで、とってもきれいにアジサイが咲いて、今年は皆さんに喜ばれております。あと、青パトのパトロール中にこの地下道の清掃とか見守り活動、こういうこともやっております。左側が本来業務の安全指導員ということで、一応見た目が警察官と同じなので、車もかなり止まってくれるかなと。普通のボランティアのジャンパーよりも、やはり制服を着るだけでその分効果があるかなという気がしております。

あとは、これは鳥取県がいろいろ取り組んでいる部分で、これは皆さんが以前発表していただいたものと大体似たような感じで活動を行っております。

今日実は米子市交通安全指導委員会から二人来ておまして、うちの若手のホープが一言言いたいということですが、ちょっとだけ30秒ほどちょっとお時間をいただければよろしく申し上げます。

校区内に米子市の繁華街がある啓成小学校の交通安全指導員をしております栗垣幹と申します。僕は行き交う学生や地域の方に対して、青信号でも車が止まってから渡るという合言葉を伝えています。先日水戸で亡くなった3歳も、昨年郡山で轢かれた受験生も横断歩道を横断中でした。「ながら運転」や移民ドライバーの急増で必ずしも止まってくれるわけではないからです。メキシコでは15歳から書類と48ドル大体7,500円の手数料で免許が交付されているようです。手を挙げて渡っても轢かれては被害に遭うのは歩行者なので、僕はこの合言葉を伝えています。

私たちが教習所で「だろ運転」ではなく、かもしれない運転と習っています。同じように子どもたちにも「だろ横断」ではなく、かもしれない横断を周知していきたいと思っています。子どもたちが一人も欠けることもなく

大人になれるような交通にしていきましょう。ご清聴ありがとうございます。

どうもありがとうございました。これで発表を終わります。

香川県交通安全母の会連合会 会長

永峰 絹江

皆さん、こんにちは。香川県交通安全母の会連合会、東かがわ市交通安全母の会の会長の永峰絹江でございます。本日はどうぞよろしくお願いたします。香川県は、皆さんもご存じのように、おうどんで大変皆さんから親しまれております。また、全国の面積で香川県が一番狭い面積を有しております。舗装率は全国 3 位、そして救急搬送時間は全国 11 位、しかしながら、貯蓄額は全国で 1 位になったこともあり、ずっとほぼ上位を保っているのが香川県の勤勉さでございます。

しかし一方で香川県の交通死亡事故を見てみますと、その表にありますように令和 2 年から今年の 10 月までの約 6 年間のうちで、令和 2 年は 59 件、しかし昨年は 31 人と、これまでの統計の約半分になっており今年も昨年より 10 人少ない 16 人まで。減少をいたしております。東かがわ市におきましても、令和 2 年は 5 人でありましたが、今年も 0 を継続いたしておるところでございます。それでは、香川県交通安全母の会連合会、そして東かがわ市交通安全母の会の活動をご紹介したいと思います。

私、会長として特に取り組んでいるところがございます。香川県の高校生のヘルメット義務化でございます。皆さんご存知でしょうか、調べました。全国でヘルメットを高校が義務化されているところは、大分、福岡、山口、愛媛でございます。来年からは福井県が義務化に参ります。そこで調査して分かったことがございます。義務化しているところが全国でヘルメットの着用率がとても高いです。愛媛県は 70%、大分県は 54%、山口県は 50%でございます。このことから、高校生のヘルメットの義務化がまさに市民のヘルメット着用の啓発につながっていると、私はそのように考えているところでございます。

そこで高校生のヘルメットの義務化に向けて、今メンバーとともに頑張っているところでございます。昨年、香川県 119 人が高校生交通事故を自転車で起こしています。そのうち 112 人がけがをし、5 人が重傷でございます。その手始めといたしまして、知事さんにもお願いして、申請した高校生に 5,000 円の補助金をいただいております。しかしながら、昨年 10 月末で締めたところ、わずか 29.6%の申請でございました。今後これを県に継続していただいているところでございます。私たち県交母連の会(香川県交通安全母の会)といたしましても、独自で香川県のヘルメット着用調査をいたしました。表のように昨年度、高校生は 15%、一般が 20%、そして小中学生は 100%の着用率でございました。

続きまして、県議会議長さんにお会いして理解を深め、香川県 PTA 連合会長さんとも協議をいたし、そしてさらに香川県 PTA 連合会にお招きいただきまして、連合会に対しましてヘルメット着用の啓発をお願いいたしましたところでございます。そして、愛媛県のヘルメット着用 10 年間になる先進の担当職員さんにお越しいただきまして、私たちの香川県交通安全母親活動推進大会におきまして、ヘルメット推進について御講演を賜ったところでございます。

道半ばでございますけれども、一步一步どんなことにもめげず、目的は高校生の命を大切に頑張ってまいりたい、皆さんのご指導も仰ぎたい、そのように考えているところでございます。

引き続きまして、地域ぐるみで交通安全を考える活動をやっております。これまで私たち香川県交母連合会はキャラバン隊活動を推進いたしておりましたが、1 巡いたしまして、それにかわる活動、「さぬき路まんが交通安全活動」を現在皆さんとともに推進するということに決めました。スタートは東かがわ市からスター

いたしました。9月28日に「瀬戸内リゾートベッセルおおち」で開催をいたしまして、香川県連合会、そして警察教育、また高校生や市民と180人に参加を賜り、交通安全についてみんなで学習をいたしましたところでございます。

それには、地元の三本松高校の吹奏楽の方にも御参加いただき、そしてまた日本総研の葛石先生をお迎えいたしました。葛石先生から3つのことを言われました。保険も時代とともに変わっていると。一つはドライブレコーダーをつけること、そして弁護士特約、また証拠写真をつける。この3つのことは今後必要でないか。それは自分が自分の命を守ることに繋がるといってお話を賜ったところでございます。

続きまして、私たちの団体である小学校、中学校、そしてまた高等学校一般部会の交通安全発表をいただき、みんなとともに交通安全について学習したところでございます。

最後はハーモニカで楽しく締めさせていただきました。

もう一つの県交母連合会の活動は世帯訪問を年間6000世帯行っております。そして、一人一人の高齢者にお会いし、そして交通安全についてお互いに会話を交わし、事故防止を訴えているところでございます。それには、その表にありますように、マニュアルを作っております皆さんと。マニュアルをもとにみんなで心を一つにして高齢者に当たっているところでございます。特に死亡事故の大きなヘルメット着用、そしてシートベルト着用を反射材着用、これを主にお願いをいたしているところでございます。また、県交母連合会は、こちらで啓発新聞である「交母のつどい」を6400部発行して各市町に配布し、啓発に充てております。それと、皆さんのお手元に置いておりますけれども、「交母こすもす」は私たち東かがわ市が5000部発行して、市内の保育園、幼稚園、小学校、高等学校、そして公共施設等に配布し、交通安全に役立てているところでございます。

最後に、NPO法人日本子どもの安全教育総合研究所の理事長さんであります。本日の講師、宮田先生監修の交差点における紙芝居、これを東かがわ市の図書館に配置いたしまして、子どもの交通事故防止に役立てております。今後はさらに保育園、幼稚園、小中学校に配布し、今後もそれを生かしていきたいと要望しているところでございます。やはり交差点の死亡事故は約50%発生いたしております。交通安全は、こどものころからやはりみんなとともに考え、活かしていくことではないか、私はそのように考えているところでございます。香川県交通安全母の会連合会、東かがわ市交通安全母の会は、性別やまた世代を問わず、市民がみんなで協力して、事故0を目指して邁進していきたい、そのようにメンバーとともに頑張っているところでございます。

今日は皆さんに今後ともご指導を仰ぎながら、この交通事故0、そして一人も泣くことのない温かい家庭を目指して、今後とも頑張りたい、そのように思っております。皆さんのご指導を今後ともお願いいたしまして、発表といたします。どうも皆さんありがとうございました。

高知県交通安全母の会連合会 会長

宮元典子

皆さん、こんにちは。高知県交通安全母の会連合会の宮元です。それでは、活動事例を発表させていただきます。

高知県交通安全キャラバン隊事業。例年、秋の交通安全運動期間中に当連合会会長などは各市町村に出向き、高知県交通安全推進県民会議会長高知県知事から託された交通安全メッセージを伝達することにより、地域の交通安全意識を高めて交通事故防止を図るものです。令和7年度は、県西部の黒潮町と

中部のいの町に出向き、町長にメッセージを伝達いたしました。

今出ているのが黒潮町の方に行きまして、町長さんと保育園の方と警察署の交通課の課長さんに交通安全啓発をしていただいて、最後の帰る時に園児さんとか、それから父兄の方に啓発物を配りました。いの町も黒潮町と同じように、町長さん、幼稚園の皆さん、それから交通安全啓発で最後に土佐警察署の交通課長さんによる紙芝居を私たちに見せていただきました。

高齢者出前ふれあい事業、例年 9 月 1 日から 12 月 31 日までの間、県内の各地域において、高齢者の交通事故防止を目的に高齢者交通事故防止キャンペーンが行われています。このキャンペーン期間中、当連合会では関係機関団体と協力し、日頃交通安全教育を受ける少ない高齢者にも行き渡るように、各地域の実情に即した啓発活動を行っております。令和 7 年度も高知県 15 地区で高齢者世帯の個別訪問や年金支給日の金融機関などでの啓発活動などを行ってまいります。啓発内容は、高齢者の世帯訪問による啓発を行います。日頃から交通安全を意識し、事故のないよう注意をしたいなどの声があった。啓発内容は、病院、集会所、神祭、スーパー、量販店など後期高齢者が多く集まる場所に着目して啓発を行います。啓発物を配布し、声かけをすることで、交通安全の意識強化へとつながったと思います。

あとは皆さんと変わりないと思いますが春の全国交通安全運動とか自転車マナーキャンペーン、高齢者交通事故防止、高齢者訪問活動、秋の交通安全運動、これからは年末年始の交通安全運動を予定しております。

今年 9 月 20 日の秋の全国交通安全運動の期間中に、交通安全広場というものを中央公園で 33 回やっております、高知県の方も出展しております。

ご清聴ありがとうございました。

■活動事例発表を元にした意見交換会

コーディネーター

東京都市大学建築都市デザイン学部都市工学科准教授

稲垣 具志

稲垣先生:皆様、改めましてこんにちは。東京都市大学の稲垣でございます。今からこの意見交換の時間、進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。恐縮ながら着座にて進めさせていただきますと思います。よろしくお願いいたします。皆様方からかなり内容の濃い、まさか腹話術が出てくるとは思ってなかったですけど、非常興味深いご報告いただきましてありがとうございます。

せっかく貴重な時間をお割きになって遠路はるばるお越しになった方々も集結しておりますので、ぜひともここでお聞きになった他の県のご様子、もう少し詳しく教えてほしいなとかですね、追加でもう少し何か言ってくれないというようなこともあろうかと思ったり、他の県のご様子をお聞きになって、アドバイスというかヒントになるようなことが皆様からご紹介いただけるのではないかなというようなところもあろうかと思ったりするので、そういったような観点で、せっかく中四国の9県ですね、集まっておられますので、ぜひとも意見交換の場として積極的にご発言いただきたいと思ったり、先週火曜日は、東北ブロックと言いましたけども、5県でしたけれども時間足りないぐらい皆さんご発言されていて、発言されなかった人いないのではというぐらい手が挙がりましたので、皆さん東北に負けなようにしっかりとご参加いただきたいと思ったりするので、よろしくお願いいたします。

どのような観点からでも構いませんので、何かご発言とかご質問とかなされたい方いらっしゃいますか？

●:先ほどヘルメット義務化ということで、たくさんの方が大分、福岡、山口、愛媛の4県ということだったので、今回また岡山も加わりたと思っており、県警とか市の方に聞きましたら、教育委員会通さないといけなから面倒だということを聞いたことがあります。やっぱり共助員が動くということはどういう仕組みがあるのかというのが感じます。高校生、高校生いますが、やはり大人ももちろん被って、これは国全体で義務化にしてほしいなと思っています。事故してからじゃなくて事故する前に頭の大切さというのはもっとしてないといけなと感じております。どういう動きをしたらいいのか教えていただきたいです。

稲垣先生:どうもありがとうございました。愛媛県が着用率ダントツトップですね。私もちょっとこのホテルの周り歩いているだけでも、ヘルメットの着用率高いなと思ったり。東京なんかは愛媛には負けていますね。これを達成されている愛媛県の方にお伺いしたいですね。いろんな経緯があつてご努力なさって実現されている状況なのではないかと思ったり、いかがでしょうか。このような義務化に至って着用率が高まるための本当の牙城はどこなのか。

●:話によると、高校生がヘルメットをかぶらずに事故して亡くなったということで、親御さんが運動されてヘルメット被ってほしいという運動されたということは聞いていますが、山口とかそちらの方が加わっているのは知らず、私は愛媛県だけだと思っていたので岡山も加わりたいなと。

瀬戸内市ですけど、有名なサッカーで優勝した学芸館がありますが、そこは岡山市が学校で練習場を瀬戸内市挟んで10キロほど自転車で通います。その間はやはりヘルメットをかぶってない。4人見ましたが、あと何百人の方がかぶってないということで。すごい選手だからとか頭の格好が乱れるとか、お金がかかるとかの問題じゃなくて、やはり事故するともっともっと高くなるので、そういう問題じゃないだろうと。

昔はチャイルドシート、シートベルトなんかなかった時代があります。今はもうそのヘルメットをかぶるのが当たり前のような時代になっていただきたいと思っております。

●：愛媛県です。ヘルメット着用は高校生だけでなく、小学生から 100%です。以上です。

稲垣先生：ありがとうございます。他にございますか？じゃあ香川県の方にマイクお願いします。

●：先程皆さんからご質問がありましたけれども、この 4 県、そして来年から福井が入りますので 5 県が義務化となります。それは調べました。1 県ずつ取材をさせてもらいました。

でも、1 県ずつが全て変わっていました。愛媛県につきましては、お子さんがお二人、高校生が亡くなりました。やはりそこが大きな基盤となっていたようでございますけれども、特に知事さんがサイクリングというか、大変そちらに力を入れたということもあろうと思います。そこはそのように聞いております。だから、やっぱりトップの人によって変わってくるのではないかと。私はその 4 県全部取材しましたけれども、全部違っていました。モニタリングをしている県もございました。県がモニタリングして、子どもたちを集めてそこで校長先生とか有識者に寄ってもらって、そういう土台作りをして義務化に持っていった県もございました。また一方では警察、そしてまた行政と別々でそれぞれの活動をされて、それが一つになった県もありました。

福井県につきましては、5%もかぶってなかったということを知りました。ですからすごいなと思えました。それはトップに立つ人の活力でないかなと、そのように考えております。私は香川県の有識者として有識者会議にずっと参加いたしまして、県知事さんにずっと訴えておりました。そしたら、その時に県知事さんから 5,000 円の申請した子どもたちに対して補助金を出すとおっしゃっていただきました。ただ先ほど発表しましたけど、29.6%が昨年の 10 月でございます。今もこれ続けております。

実は先日、人生 100 年時代フロンティアの会議に有識者として参加いたしておりました。県知事さんにもその質問いたしましたら、今からはとにかく申請をたくさん出してくださいと、そこをまず力入れていきましょうというようなお返事をいただきました上で、私は各学校の高校生にも取材をいたしました。東かがわ市ですが、8 割以上が申し込みをしました。やっぱり私たちが熱心に働きかけて、校長先生や担当先生が働きかけると、多くの子どもたちはやはりそれに目を向けていくなと思えました。私はもう本当に一步一步アクションを起こしていくことで、何か私も今このように活動を推進しておりますけれども、抵抗とかあるかもしれませんが、目標は子どもたちの命ですよ。やっぱり命を最優先にして頑張っていくことを共にやっていきたいと考えているところでございます。補助金いただいているというだけでもね、一つ前に進んだかなと、そのように考えておりますし、もっと高校生や高校に働きかけてこれからは深めていくことをしていきたいなと、そのように考えているところでございます。

稲垣先生：はい、ありがとうございます。かなり丁寧に情報を集められている貴重なコメントをいただきましたけれども、やっぱり各県によっていろんな重要政策というのは変わってくるので、その中で予算が必要だということもあろうかと思うので、その辺の政策的なところをどう突っ込んでいくのかということもかもしれませんが、今ちらっと調べたところ、鳥取とか高知も結構ヘルメットの着用義務のような流れが出てきているという。

●：岡山県は小学校、中学校で 100%ヘルメットをかぶっています。でも高校になるともう外している状態です。なので、やっぱり高校生でなくても、日本全国がヘルメットをかぶるといふうになれば、高校生もかぶります。でも、高校生がかぶってくださいっていうことを言うと、今は制服でもやはりかわいいのがいいって選ぶ。ではあそこの高校はヘルメットかぶるのだったらそこにいかないっていう子供さんがおられるということを知ると、もう言えないなという話があります。ですから、もう絶対にもう全国という形をとっていただけたら、もう一刻も早くお願いしたいと思っております。

●：鳥取県のヘルメットですけども、岡山県と同じで小学校、中学校はすべて通学時にはかぶっております。高校はやっぱり髪が乱れるという理由でかぶる子は少ないです。学校にも言っていますが、安全よりもまず学校という感じで。本当は良くないことですけども、ただ、大人の人とか老人の方もかなり装着率が高くて、お年寄りでも自転車に乗る時はほとんどかぶっていただいているような状況で、年々改善していつているので、一番ちょっと面倒なのがやっぱり高校生じゃないかなと。他の方は大体毎年着用率が上がっております。以上のような状況です。

稲垣先生：はい、ありがとうございます。今あそこの高校がヘルメットかぶらないといけないみたいな噂が広がって、それは面倒くさいから行きたくないけど、やっぱり私立の高校からすると結構きついところがあるかもしれないですけど、その辺をどうオーガナイズしていくのかって言ったようなところも、ちょっと知見を深めていければと思います。ヘルメット関連でご発言いただいてもいいですし、他のご視点でも構いませんので、何かご発言いただけそうな方いらっしゃいますか？

●：すいません。度々失礼いたします。私は一つ今取り組んでいることがヘルメットの義務化です。それはすぐにはできないかもしれませんが、ただ、県知事さんや協議長さんが5,000円補助金を出していただいたことには大変感謝をしました。とりあえずこれを一つずつ取り組んでいかないといけないと考えております。

もう1点はですね、死亡事故の主な原因はヘルメット非着用、それとシートベルトの非着用、反射材の非着用でほぼシートベルト以外は90%以上が死亡事故になっています。私ちょっと次に行動を起こさないかなと考えていることがあります。実はシートベルトをしてなかったら、1点ですよ。1点が2年でなくなりますよね。そしたらシートベルトをしない人がいます。もう1点減点ぐらいたったらいかなとということで、シートベルトをしない。実は香川県の非着用今1%です。でも5年間調べたらその1%中の65%の人が死んでしまいました。ですから、私は命を守るという意味で、シートベルトの厳罰化を国として私は取り組んでいかなと、そのように考えております。やはりシートベルトをしないといけないなと思っている人はしています。でも、1%のしない人が亡くなっているわけですね。香川県も65%はその方が亡くなっています。命が大切ですから、その方を守るために厳罰化で、「お金とられるのだったらやっぱりしないとあかん」とね。そういうふうにもなってもらったら、私は命が助かるのかなとそのように考えております。国としても政府としても、今後それを私は働きかけていきたいなと、そのようには考えているところですが、皆さんのお知恵とかご指導とかね、いただければいいかなと、そのように考えているところでございます。どうぞ先生、よろしく願いいたします。

稲垣先生：はい、ありがとうございます。違反に関しては、シートベルト非着用は1点で、反則金はないですね。お金は取られないというところでございますけども、確かにシートベルト命綱ですので、私よくドライブレコーダーの映像分析とか車内の映像とか見ると、お客さんだいたい後部座席でなくて吹っ飛んできますね。急ブレーキかけただけで額と顔を打ちますね。僕の妻にももう再三後部座席で締めろと言っていますが、何かシートベルト関係でご発言されたい方いらっしゃいますかね。

●：失礼いたします。命を大切に思いまして。私の団体はキーを入れる前に、エンジンを入れる前のシートベルト着用、キーを切ってからシートベルト外す。この活動をもう長年しております。多くの団体の方がもうやっているよって言うっていただけていますが、ぜひそれをしていったらいいのかなと。そういうことからでもね、今啓発をしているところでございます。チラシは何1000枚も作りました。大きなポスターも作って啓発を継続しているところでございます。

稲垣先生：ありがとうございます。それでは何か他の話題でも構いませんので、お願いいたします。

●:今のシートベルトはですね、車に乗ったら必ずシートベルトしてエンジンをかける、降りる時はエンジン切ってからシートベルトを外す、これもエコになりますよね。これ説明してもみんななかなかできませんが、これしたらシートベルト非着用は必ずなくなりますから。

それから直接関係ないですが、私も交通安全のことをやっていますけど、一つお聞きしたいのは免許の書き換えで愛媛県安全協会に入ってくれる方は大体3割ぐらいですよ。このままでいったら愛媛県の安全協会は崩壊すると思うのでね。ちょっと心配していたので今いろいろ県の関係の人と相談していますが、加入率が3割ほどですからね。このままいったら安全協会なくなります。わかるようでしたら他の県の安全協会への加入率を教えてくださいませんか。

稲垣先生:ありがとうございました。それでは、各県の安全協会の加入率であるとか、具体的な数字が出なくても、例えば加入を促す、何かいいアイデアとか、こんなことをやっていますよというのがもしあれば教えてくださいませんか、お話しできそうですか。なかなか直接関わってないと情報がなくていいところかもしれませんけども、いかがですかね。特に免許更新の時ですと講習をなさったりとかして、ぜひ加入してくださいという流れが、あそこが多分大きな機会なのかなと思いますけども。

あとは免許を取った若い方々が初心運転者の時とかと思いますけども、何がございませぬか。愛媛県は加入率が3割ということで、このままいくとまずいのではないかっておっしゃっていますけれども。

●:すいません、岡山県ではそれに入るために1,500円か払って、あと500円って2,000円ぐらい払っていますが、若い私の友達、若い人みんな入っておりません。でも、そのサービスとしてチャイルドシート、ベビーシートは、年末とかお盆で戻ってくる時に、飛行機で来る方はやっぱりチャイルドシートが、ベビーシートがないので、部署の管轄によっては無料でお貸しできるっていうのがあります。

あと、何か買い物でも何パーセント引きとか、何かそういうのがあったような気がします。でも入っていない人は知らない。何かチラシがあるけど見てないとか言うようなことを言われています。ぜひそれを使ってもらえたら。やっぱりお金を払う以上、何かサービスがあった方がいいのかなと思っています。

稲垣先生:はい、ありがとうございます。なんかこう、インセンティブ働かせないとなかなかお金払って加入するところまでは行動に出ないというところなのかもしれませんが、ほかございませぬか。お願いいたします。

●:今ご質問の方ですけど、交通安全協会と免許事務と交通安全の思想拡大、免許事務につきましては、県からの委託で全額委託費が出ます。交通安全協会の安全活動費については、皆さんからご寄付をお願いしております。そのご寄付も同じように3割、4割ということでございました。それで、交通安全協会はどうするかということで、鳥根県は小さい県でありますけども、それぞれの市に交通安全協会を独立法人を作っております。そこに人を雇ってやっていたのですけどもそれを統一しようと。今まではまさしく交通安全協会としてやっていたけども、支部と言ったような形にして、免許事務に関する費用については全額県からいただくと。それで、交通安全推進に関する費用は各市で回収しますけども、県に一旦納付してそれをまた再配分していただくといったようなやり方をします。それで交通安全協会の会費のことですけども、もう一方では安全運転管理者協会というのがあります。ある一定程度の車の台数持っているところはこれに入らなくてはいけませんけども、そこが200社ぐらいありました。そこに対してですね、交通安全協会に加入の呼び掛けをお願いしました。そうしますとそこは積極的で、約120件が申し込みしてくれまして、逆に今お金が少しずつ増えていると言ったような状況になっております。

何のために交通安全協会があるのかということ、原点を考えていけば本当に皆さんのためだと言ったようなことです。そういうこともやっておりますので、今までの考え方を一旦白紙に戻してどうすればいいかということをお考えなくてはならない時期になってきたのではないかなというふうに思っております。以上です。

稲垣先生:ありがとうございます。組織のあり方ってところで、各自治体の安全協会っていったものの統一かってことと、あともう一つ大きなのが後半おっしゃっていた安全運転管理者の講習っていうのが道路交通法で義務付けられていて、毎年絶対受けないといけない講習がありますね。そこで講習費もお支払いしてっていう財源にもなるけれども、そもそもそういう企業の方々に安全協会の加入を促す、そこがかなりいい意味があるかなっていうようなところで、確かに企業の総務とか人事関係のところ、安全のことをかなり意識高いのでそういうところから突っ込んでいく。自転車のヘルメットもそういったところが重要なのかもしれませんけれども、今かなり重要なヒントをいただいたと思います。どうもありがとうございます。

●: 昔の話しますとね、免許を書き換えしたら必ず安全協会に年会費 500 円ですけどね、3 年でやったら 1,500 円、5 年やったら 2,500 円ですけど了承してくれていました。

それで今どうしているか聞いて私が県とかに免許書き換えと安全協会の方に並行して入ってもらうようにしてくれと言うとだめだって言われます。縦割りで別になっていますから。免許書き換えをして、それから安全協会入るとなると別の窓口になるのでこれでは絶対だめですよ。それで、さっき言われたチャイルドシートの貸与とか案内は私どももやっています。確かに宣伝ができていませんでしたが。

ですから、どうするのかという話で愛媛の場合、一括で入札しないといけないのですよ。入札落ちなかったら安全協会の人全員クビになるのかという話をしたのですが、県知事に言ってほしいという話になってどうしようもなくなりまして。一生懸命みんなでもボランティアやっていますが、このままだと安全協会がなくなります。その辺りをどうしたらいいかいうことで相談していますけどなかなか難しいので、ほかの県のご意見あったら教えていただきたいと思います。

稲垣先生:ありがとうございます。こちらのことに関して何かご発言いただけそうな方はいらっしゃいますか。むしろうちの県大丈夫かなってなってきましたか。はい、お願いいたします。

●: 高知県の母の会の顧問をしている傍ら、安全協会の会計理事もしております、高知県ももうすぐ潰れます。私いつも言うのですが、免許を書き換える時に協力金をいただけますか？と事務が聞いたら、「やめときます」と言ったら、そしたらその後ろの人も右にならって「僕もやめておきます」と、こういうことになるから、協力金をいただけない場合は、書類を 5、6 枚書かんといかんのですけど、今日は別室へ行って書いてくださいと言ったら、なかなか書き方が分からないから払うみたいな流れになっています。いつも言っていますけど、協力金はもう強制で、年 500 円というのをいただくようにしたら潰れることがないと思いますけど。私も会計理事をやめたいです。以上です。

稲垣先生: 高知県の切実な実情が明らかになりました。ありがとうございます。

●: 今、安全協会のことを入札のことについてどうのこうのがありましたけども、島根県も一緒ですね。島根県も大変だということで。何が大変かと言いましたら、安全協会は県の委託事業なので、安全相談委託事業に対して誰でも入札できるわけです。それである警備会社が入札すると言ったような話もありました。それに対しては、先程申し上げましたように、免許の更新だけだったら誰が入札しても警察署の窓口で借りてやればいいことですけど、地域の交通安全ということになりますと、今の組織というのは全部ボランティアの皆さんで成り立っております、とてもその警備会社さんが安い入札価格を出したところで地域のことについては全くできないです。ですから、この交通安全協会というのは必ず残す必要があると思うのです。その「残す」根源

は、やっぱりボランティアの方の処遇の改善だと思います。私のところでは、ある交差点で学童の朝の見守りの時に、交差点でやっていましたけど、飲酒運転の車が突っ込んできてそのボランティアの方が亡くなっちゃいました。その時に皆さんは「大変だったな」ということでしたが、後で答えとして、「ボランティアの方は道路には出ないでください。歩道の中から安全にやってください」という話が流れて来ました。私はその事故をもって、仮にそうしていった子どもが同じように飲酒運転の車にはねられてそこに居合わせた心の傷が、そのボランティアさんにも相当くると思います。

何が言いたいと言いましたら、今日は内閣府の案内で来ましたが、内閣府の担当者の方がボランティアって簡単に名前を使って何でもかんでもタダでやってもらえると行ったような思いを持っているのではないかなというように思うのです。

例えば、今日の交流会ですけども、せっかくの機会ですから、立食の本当の交流会でもやっても面白かったのではと。ただ、旅費だけ合わせて。昔の江戸城の徳川家が参勤交代で各地の諸大名を集めてくるといったやり方でやっついて、それで来た人たちには、内閣府がやるのだから、あんたの旅費だけでいいじゃないかと。それも最低限の旅費で、一般で考えられるような旅費も払えない。それから、私は3日間も居ますけど、弁当を払うわけでも何でもなし、あまりにも待遇がひどすぎる。やっぱりそこから変えていかないと交通安全協会、あるいは皆さんの団体も後継者をどうするかということです。人にものを頼むということは、その人から頼まれると言ったようなことで、その輪が広がっていけば必ずそれぞれの団体、例えば交通安全協会もどんどん活躍していくのではというような思いがいたしました。以上です。

稲垣先生:ありがとうございます。かなり重要な提起を、拍手もされている方がいらっしゃいますけれども。内閣府さん、ちょっとコメントをいただけますか。今おっしゃったことに対する内閣府としての見解が欲しいということではなく、ただ、この担い手不足とか後継者探しという話は、おそらくこの中四国だけの話ではなくて、そういったボランティアに手を挙げてくださる方のための戦略というのは、これからどういう風にしたらいいかということ、想いを少しいただけたらいいかなと思います。お願いいたします。

内閣府:私は冒頭申し上げました通り、県の警察出身で出向ということで、春から内閣府の方で仕事をさせていただいております。個人的なところですけども、そのボランティアを軽視するですとか、そういった気持ちは毛頭ございません。ただ、お話しにありました旅費が最低限しか出ないであったり、弁当も出ないであったり、なかなかそういう国の仕組みというのがあり、さすがに立ち行かなくなってくるのかなという思いも確かに感じておまして、その辺りは受け止めてまいりたいと思っておりますが、国の基準に則ってお支払いすることとなっている中でご不便をおかけしている面があれば申し訳なく思っております。どうか引き続きご支援よろしく願いいたします。

稲垣先生:参事官補佐のお立場で、この春から県警からお越しになってご尽力されているということですけども、実態としてこういうことだということを中心にまざりと指摘になって、本府に帰っていただけてしかるべきところと、またいろいろと調整いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。そうやって声を出していただかないと、もちろん東京の方には伝わらないというようなところはあろうかと思っておりますので、どうもありがとうございます。

他はいかがですか。今までの内容に関係することでもよろしいですし、他の話題でもいいですけども。

●: すいません、徳島県です。県ではなく私の町村ですが、ヘルメットは中学入学の時に説明会で一応500円の補助金を出して学生に自転車で来る子は全員かぶってもらうようにしております。だから中学校からずっとかぶっているのですが、小学校はこどもの頭が大きくなったりするので、なかなかうまくいきません。最初

こどもたちに貸す運動なんかやったらやっぱり嫌とか言って。やっぱり小さいこどもは無理だったので、中学生は入る時に入学説明会で補助金を出してしています。それから、さっきのチャイルドシートは、あれはうちの孫が東京に行っていますが、帰ってきたら社会福祉協議会が貸し出しをしています。それを借りて今度は洗濯に出して、クリーニングを出してお返しするようしたら、無料で1週間でも10日でも居る間は貸してもらえそうな、やっぱり行政とちょっと話し合いをしながらそういう形をしておりますので、なかなか町民に周知ってできないですが、そういう形で利用させてもらっております。

稲垣先生:はい、ありがとうございます。このヘルメットのお話、先ほど上がっていましたが、やっぱりいろんな政策がある中で、確かにここ重要だねって示すために、僕はやっぱりデータである程度示した方がいいと思いますね。一番わかりやすいデータは着用率がどれくらい低い、他県と比べてどうなのかとかですね。政策推進ですごく頑張っている県、愛媛県とかありますよっていうそういう定性的な話もありますけれども、事故のデータを巧みに使って見せるとかそういったものは人の命に関わることなので、どれほど重要なものなのかというのを客観的に示すものがあってもいいのかなというふうに思いました。何かお話しされたいことがあればいかがですか。

●:すみません、徳島県が続きます。先程、交通安全協会が危機ということをお聞きしましたけれども、交通安全母の会の方も大変高齢化が進んでおまして、社会生活のもう共稼ぎのご家庭が多くなって、PTAからのご協力が非常にいただきにくい状況になっております。先程交通安全協会の方がおっしゃってくださったのも同意見ですけれども、あの高校生のヘルメットにいたしましても、中学校までは、交通安全母の会に会員として入っていただいています、高校生になったらヘルメット着用も終わり、そして子育て母の会の協力も終わりってというような形になっております。

いろんなヘルメットのファッションショーですとか、いろんな活動をしておりますけれども、まず交通安全は家庭からというので、保護者の方からまず心を入れ替えてもらって、家庭からヘルメットの着用を推進いただけないと無理だと思います。それと、ちょっと交通安全母の会の組織についてご意見をいただきたいです。

●:本当は言いたくないですけど、内閣府の方がお見えになっているので、あとからお手紙を差し上げようと思って書いてあります。内容については最後の方ですけど。事業仕分けをした時に、母の会の事務局に二人の内閣府のOBがいたことが原因で解散っていうふうに言われました。

すぐさま異議の申し立てに行きましたが、これ以上何も言うことはない。ボランティア活動ですよ。1銭も貰ってないですよ。なんで内閣府のOBの方が二人いるために事業仕分けをするのですかといろいろ話したけど、言うことを聞かないで解散になりました。元をただせば、昭和40年代にこどもたちがさつき言われたように、もう車社会についていけずに次々と犠牲になったわけですよ。それで、内閣府が各県に対し、ボランティアの母の会を結成してくれと、こどもたちを守ってもらいたいということで全国に言ったわけです。私の市町村では県よりも1年早く母の会になっていまして、私はこどもがお腹にいる時から母の会に加入していました。というのは、こどもを犠牲にしたくないからというただ一心で、2歳の時から手を引っ張って黄色い旗を振っていましたが、これからですよ。どうしたらいいかということで、前日に泊まって昔のことを知っている、徳島の会長とゆべ飲みながらいろいろ話をしたのですが、一番言いたいことは前のように、12時受付で1時から始まって講演を聞いて、それから1時間ぐらいでやめて各県の分科会っていうのは9県分かれていろいろこども会、家庭、高齢者、ヘルメット、自転車という風な意見を交流して、その日はもう5時で終わって、5時半から意見交換会を2時間ほどして、みんなで発表しない人も食べながら話をして、明るる日9時からまた12時まで分科会についてそれぞれ意見を発表して、すごく盛り上がったのが10年ほど前。それで終

りました。非常に残念です。さっきも言われたように、これからもやっぱり交流会っていうのは必要だと思うので、昼受付でその晩は交流して、明るる日の12時でというような内閣府の方をお願いをしたいと思いで、それでいいね。

稲垣先生:ありがとうございます。この交通ボランティア交流って言ったような観点でも、近年のこのやり方っていうところにも少しいろいろと課題があるっていうようなこともね、参加者の方から出たというようなことをお持ち帰りいただいてね。予算の話とかも、事業仕分けというそういうような話だと思うので、ちょっと個人的な政治的な見解はやめますけれども、そもそも交通戦争と言われた時代の緊急要請を受けて、母の会っていうのが結成されていて、その中で手を挙げたボランティアの方々が今こうして活躍されている、いろんなこの犠牲の中で命の犠牲を止めてきたっていうところがあるっていうところで、私もすごく敬服の思いでいっぱいですがけれども、今おっしゃったその分科会とかね、そういったような話っていうのは、やはり一番重要なのは各県が集まって情報交流して、さらに高みを目指していくっていうことですので、すべてが来年から変わることはなかなか難しいかもしれませんが、ぜひともお持ち帰りいただいて、その辺検討いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。このように長く携わってこられた方々の意見って非常に重要かと思しますので。ありがとうございます。

●:米子ですが、防犯カメラは交通違反の予防またはその証拠になると思います。

各県や皆さんの地域での防犯カメラの設置状況をちょっとお尋ねできたらなと思います。というのも、僕自身がちょっと島根県の安来市で勤めていたことがあって、どういった理由でつけられていたのか分からないですけど、島根県安来市では学校、公民館、集会所に防犯カメラがあって。大体その防犯カメラって入り口だけを映しているじゃないですか。だけど安来市はこの公共の建物からその幹線道路に向けた1台が必ずあります。それを警察への情報提供としているような事例がありました。安来市で地域の方に聞くと防犯や交通ボランティアの減少に伴って、その代替として付けたっていうふうに地域の方がおっしゃってました。

ちょっと省みて米子市もそういうのがあるかなと思うと、先輩が隣にいる中でちょっと発言しにくいですけど、米子市ではそういう幹線道路に向けた防犯カメラっていうのは設置されていないというふうに僕は認識しているので、各県の皆さんはどうなのかなっていうのをお尋ねしたいです。

稲垣先生:はい、ありがとうございます。防犯カメラの話は結構上がりやすく、いろんな意図を持って付けられていることが多いと思います。他の皆様の地域でそういう防犯カメラがかなり交通安全とかの意図も含めて設置されているような事例っていうのはご存知ですか。たまたま映っていた犯人が捕まるとかそういう話ではないですね。なかなか個人情報の関係でハードルも高くなっているとこあろうかと思うのですけれども、いかがですか。

●:交通安全の防犯カメラに関しましては、愛南町は一番田舎ですけども、国道から県道になりますね、そのほぼ町の入り口と出口との間ぐらいに警察の方が警察署からの依頼で民間のちょっとした大きい建物のところについています。普段はそれを見ることはなくて、交通事故がその交差点で起こった時にだけ見るという形になっていると聞いております。

稲垣先生:なるほど。はい、ありがとうございます。こういう県道の出入口とか、民間のビルにつけているっていうようなもの、もともとその交通の状況を監視するって意味での交差点向けのカメラっていうのは全然もともからあるのではないかと思いますけれども、そういう交通ボランティアとか地域の安全を守るための防犯カメラの設置というようにところも、これから事例が増えてくるのかもしれないかなっていう。完全に交通ボランティ

アの方々の活動の変わりにはならないかと思うのですけれども、何かあった時のその状況とか抑止効果もあるかなとは思いますが。

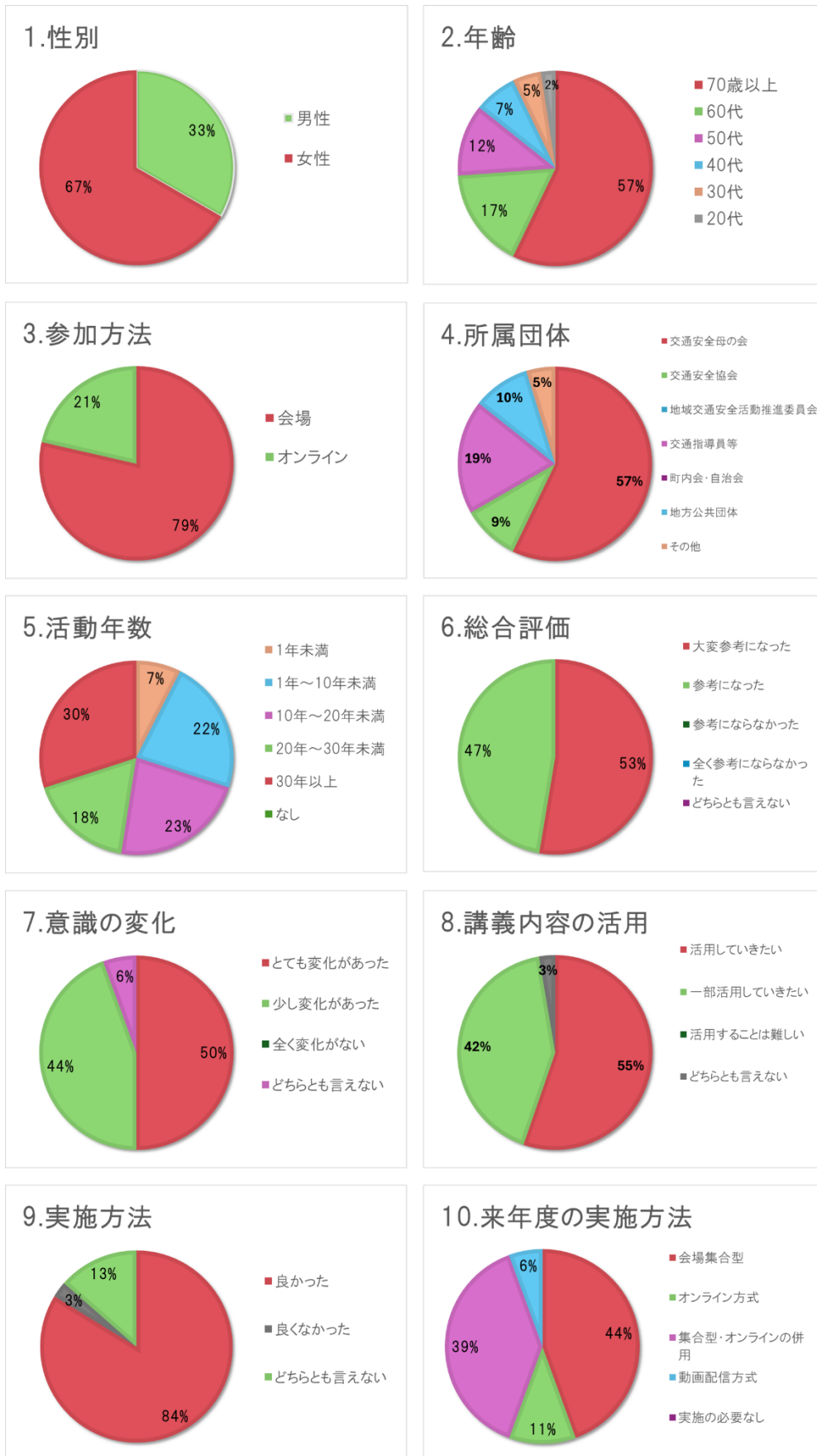
■講評

どうもありがとうございました。最後ちょっと簡単に振り返りだけさせていただきたいと思うのですけれども、今日はかなりヘルメットの義務化の話と、あるいは交通安全協会の持続可能性の話で、大きく分けて3つ目が、そもそもこのボランティアの位置づけとか、この講習会っていう名前がついたりしていますけども、この交流ボランティア同士の県をまたいだ交流のあり方といったようなところでご意見いただけたのではないかなと思います。ヘルメットの義務化に関しては、いろいろと小中ではかなり着用が進んでいるけれども、高校で脱いでしまう。あるいは一般成人の大人たちにどうやってアプローチすべきなのかといったようなところをいただいたのかなと思いますね。長峰さんかなりお調べになっていて、それぞれ地域の事情があるので、それぞれのアプローチが個別にあるねといったようなところで、私たち引き続き全国的にこの状況をにらみながら、自分の地域に必要な戦略を打っていく必要があるのかなというふうに思いました。

あとは安全協会の持続が難しくなってきたというところに関しては、そもそも仕組みのあり方を再検討するところであるとか、安全運転管理者講習にやってくる企業に対する呼びかけも一つ効果があるのではないかなというお話がございました。あとは、入札制度というところで、免許の更新なら警備会社で行けるけれども、交通安全のボランティアが担ってきたことに関しては、代わりは絶対ききませんので、こういったところからボランティアの存在価値といったようなところに関して、国としてもきちんと再認識すべきなのではないかという貴重なご指摘があったのかなというところでございます。ボランティアの軽視はないというようなことでありますけれども、こういう母の会の高齢化とか、あるいは担い手不足、後継者探しといったような中で、そういう中でもやっぱりお互いの交流を深めていくためのこの会合の開き方のあり方というようなところはやはり考えていただきたい。1泊2日というような案が出ておりましたけれども、どのような案がベストなのかというところをご検討してほしいというところでございました。

あと、先ほどお話にあがったカメラの話がありましたけども、最近IT技術も相当進化していますので、こういったようなICT技術を駆使した一つの完全に置き換わることはないと思うのですけれども、新しい考え方ということもこれから求められてくるのかなというところで、皆様からいただいた貴重なご意見をさっとダイジェスト版でまとめさせていただきましたけれども、ご異議はないですかね。お前、何勝手なこと言っているって話はなかったかと思いますが、皆様の中四国もかなり忌憚ないご意見をたくさんいただきまして、誠にありがとうございました。私も今回愛媛に来て、美味しいものを食べただけでなく、かなり貴重な自分の研究活動、教育活動にかなり資する情報を得られたので、また東京に戻って頑張って活動したいなというふうに思いました。それではこの意見交換会というのはここまでとさせていただきたいと思います。皆様、どうもありがとうございました。

3.アンケート集計結果



問11.今後取り上げて欲しいテーマ、講演等について

- ・ヘルメット義務化
- ・ヘルメット義務化、シートベルトの厳罰化
- ・高齢者についての講座も聞きたい
- ・ボランティアのめずらしい取り組みをおしえてもらいたい
- ・教室で使える話し方だったり、グッズだったりそういう事があればうれしいです
- ・ボランティア等の待遇向上について
- ・自転車のヘルメット着用が高校生になると途端に着用率がさがるので、着用について指示願いたい
- ・交通防災について、交通指導中に地震災害があった時の対応等どうすればいいか
- ・道路交通法が改正されるそうなので、どう改定されるかを知りたい
- ・移民ドライバー急増に伴い各国の免許取得事情
- ・継続的ボランティア活動
- ・交通ボランティア活動をする人の後継者不足についてなど
- ・地域のボランティアの獲得、活動事例。ボランティア活動が活発な地域の手法をききたいです
- ・自転車の事故が気になります。(正しい自転車の乗り方指導など)
- ・大人も手を上げて渡る運動とヘルメット着用すること(大人も子供も)

問12.本講習会以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるために必要な機会について

- ・交通法が変わるのでもっと知りたかった
- ・いつも対応がしっかりしている
- ・働く世代の参加もあればと思う。ヘルメット義務化を広めてほしい。私も推進するが時間がかかる
- ・たとえば交通安全ソングやダンスについて活動に役立てられるような講習会など
- ・企業(ホンダ、JA など)の講習会に参加させていただいたりしています
- ・権限がないのでトラブルが予想できる場合があるので、対応方法等を指示願いたい
- ・交通指導中に目の前で事故になった時の対応。いざという時の対応。いろんなことが予想されます
- ・情報交換をしたかった
- ・愛媛では母の会も近年、高齢者に対する指導ばかり目立ってきていると思います。ぜひ子供たちに保護者に本日のような講演で勉強した内容を伝える方法を考えていただきたいです
- ・お話にありました生活道路の件、来年からといわずにすぐ地域住民に知らせてほしいです。(私は警察署に問いあわせて、承知しております)
- ・ズームを用いた定例会の案内・開催
- ・講習会や技術講習
- ・ブロック講習会はボランティアが顔を合わせて、情報交換を行うのがいいと思います。オンラインは例外として、県外員とボランティアが全員集合することが効果あると思います
- ・交通指導員の知識、技術の講習会と勉強会をしてほしい(市単位や県単位で)

問13.その他、ご意見ご要望ご感想など

- ・もっともっと交流したい

- ・ヘルメットの件がよくわかりよかったです
- ・参考になった
- ・同じ発表者は次年度に別の地区で発表するべきだと思います
- ・稲垣先生の講演を拝聴し、今日参加してよかったと感銘を受けました。楽しくわかりやすく理解しやすいお話でした。地元に戻ったら会社や地元の母の会にて、先生のお話を伝えていきたいと思います。必要な情報をわかりやすく伝え啓発活動していきたいと思います
- ・沢山の人に聞いてもらいたい共有していきたい。講演は沢山聞くべきと思う。稲垣先生の話面白かった。参加して大変良かったです
- ・活動事例発表参考になりましたが、やはり実際にやられている教室の事例をじかに見たかったです。(資料のお話より)
- ・稲垣先生の講演が面白く、大変ためになりました
- ・参加者に迅速で丁寧な連絡を求める。直接連絡し、誤りがないように対応してほしい
- ・座席図があればよいと思います。各県等あれば話しやすいと思います
- ・内閣府ではボランティアをどう考えているか。大事にするべきである
- ・山陰から会場までの交通が不便であるので、自家用車利用も可とすべきであると思う。出張計画の示達が遅いので、せめて一か月前には連絡をお願いしたい
- ・説明していく中で資料にページがあれば助かります。交通指導員研修の実施。資料の活字が大きいので助かりました。全体的に時間の短縮を希望します。学校教育の中へ安全教育をしっかりと取り組むことが大切です
- ・テキストにページ No を記してほしい
- ・ホテルの駐車場なのに割引がなかった。利用者への割引があるより、ホテルに働きかけてほしかった
- ・他県の活動内容がわかり、ありがたかったです
- ・午前中の講演については保護者、子供たちの教材に使用したいので、もう少し整理したパンフレットをつくっていただきたいと思います。稲垣先生の講演も大変勉強になりました。どちらも地域でぜひ伝えていきたいと思います。よろしくお願ひします。本日はありがとうございました
- ・たいへん勉強になりました。これまで以上に見守ります
- ・各県代表の方との交流をする時間を取ってもらいたかった
- ・今日の会を終えて、ボランティアで活動している人たちの大切さを感じました
- ・講習内容を変更してもらいたい。講演はもういらぬ
- ・会場の座席に県名の立て札があればよかったです。昼休みなどに交流ができます
- ・各県の交通指導の活動状況がよくわかり大変参考になりました
- ・午前中の宮田さんの講演で意識調査のお話がありましたが対象の地域とかで変わるのでしょうか。午後の講義実験からの報告が具体的で納得しました

4.写真



来賓挨拶 愛媛県



講演 宮田先生



講演 稲垣先生



活動事例発表の様子



活動事例発表の様子



意見交換会

